

仁 企 号
平成20年10月15日

国土交通省 道路局長 様

仁木町長 三 浦 敏



今後の道路行政についての意見提出について

このことについて、別添のとおり提出いたします。

北海道後志地域は、果樹やメロン、スイカ、じゃがいも、アワビ、ウニなど、道内でも有数の新鮮で良質な農水産品の産地であり、豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて「やすらぎ」と「うるおい」を提供するレクリエーション基地である。こうした地域の「宝」(資源)を守り発展させるべく努力を重ね、北海道ブランドとして国内外に発信する取り組みを進めているが、過疎化、高齢化が急速に進展し、先行きの見えない社会・経済情勢は地方の元気を奪っている現状である。

そんな中、北海道洞爺湖サミットでは、自然、環境、食材など多方面で北海道ブランドを発信し、輸入食材の安全性の問題も影響して、安心・安全にこだわった北海道農業が大きくクローズアップされたところである。

こうした転機にある北海道であるが、国土の22%を占める広大な面積には180市町村が点在する広域分散型社会を形成しており、道路交通への依存度は非常に高く、一方、高速道路の供用率が全国では67%に対し北海道は45%と大きく立ち遅れている。このため、道内の主要都市や地方生活圏間を結ぶ高速交通ネットワークが十分に形成されていない現状である。

北海道が目指すのは、人と地域が輝く、環境と経済が調和する、世界にはばたく北海道である。広大な大地、優れた自然環境、豊かな水と森林、地域が生み育てた食材など、「物」と「人」がいきいきと動きグローバルに活躍できる環境整備のためにも、高速交通ネットワークの形成を強く要望するものである。

○現状

仁木町には、国道5号が平坦部を南北に縦貫して隣接町に通じており、これに道道仁木赤井川線及び町道・農道が結びつき町内を網羅している。町道路線は概ね整っているが、歩道の整備、市街地道路の改良や舗装が課題として残されている。

国道5号の小樽～仁木間は、年間を通じて車両の通行が多く渋滞を招いていて、平成5年に開通した広域農道により一部緩和されているが、特に春から秋までの行楽期には著しい渋滞状況を呈している。

○課題

国道5号を介した交通事故が、頻繁に起こっているため、町としても毎年2回地域住民による「交通安全旗の波運動」を展開して、安全運転を呼びかけており、歩道の狭隘なところにおいては、交通事故の防止や歩行者の安全確保のため、歩道の拡幅整備が望まれる。

また、行楽期である春から秋は、仁木町の主要産業である農業の繁忙期とも重なり、町内の観光農園には新鮮な農作物を求めて約30万人が訪れていることもあり、交通渋滞等が地域経済に重大な影響をもたらすこととなる。北海道横断自動車道(余市～小樽間)の早期完成と余市～黒松内までの早期着工が望まれる。

仁木町は「果実とやすらぎの里」を永遠のテーマに、平成13年度から第4期仁木町総合計画を実施し、平成23年度からは、10年後を見据えた第5期総合計画を策定する。

近年、環境問題や輸入食材の安全性の問題もあって、安全で良質な北海道農産品が国内外から注目を集め、「地産地消」や「産消協働」に代表されるように、「人」「産業」「地域」が連携して地域経済の活性化を図る取り組みが進められている。

仁木町では、早くから、農業と観光を一体化させた観光農園事業を実践し、「フルーツ王国にき」として北海道ブランドの一角を担ってきたが、社会経済情勢の激変は、農村の過疎化を深刻化させ、農業後継者不足・高齢化による離農拡大など、農村活力の低下を招いている。食の安全・安心に対する消費者ニーズに応え、安定的な供給体制を確立するためにも、農業基盤の整備や担い手の育成、農業と観光、農業と他産業の連携などによる新たな農業経営スタイルを確立し、地域活力のある独自性、創造性のあるまちづくりが必要である。

産業・経済活動の拡大や生活圏の拡大、地域間交流の活発化、広域観光の推進等により道路の重要性はますます高まりをみせている。町内を縦貫する国道5号と余市町や赤井川村に接続する道道等について、線形改良や歩道の拡幅等、逐次整備されてきてはいるが、今後においても交通安全対策を含む整備充実を要請していく必要がある。

更に、高速交通体系の基軸をなす小樽～黒松内間までの北海道横断自動車道の整備は、後志圏域はもとより有珠山噴火等災害時の主要道路としても重要であるとともに本町の復興にとっても必要不可欠なものとなっており、早期完成に向け、なお一層要請していく必要がある。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力	○北海道横断自動車道余市～小樽間の早期完成と黒松内～余市間の早期着工 仁木町の農業は、もぎとって味わう体験型観光を主軸とした第1次産業の町であり、仁木町を訪れる人が安心、安全に、ゆったりとした時間を満喫できる「食」と「人」との交流を大切に、まちづくりを進めている。その大きな支えとなったのがこれまで進められた道路施策であった。今後の中期計画でも、物流としての役割以上に、「人」と「人」をつなぐコミュニケーション手段としてとらえた道路整備を推進すべきである。 少子高齢化や医師不足を抱える過疎地域にとって、救急医療体制の充実が重要施策のひとつ。休日、夜間や重症患者を二次・三次医療機関へ緊急搬送するケースが急増している。	輸入食品の安全性が問われている今、食糧自給率200%である「食糧基地北海道」が果たす役割は大きい。安心・安全な道産食材を全国の消費者や工場に迅速に届けることで、価格の安定と自給率向上の効果が期待できる。 また、「自然」「人」「もの」など優れた北海道ブランドを世界に発信することで、新たな交流ネットワークが形成される。国際競争力を強化し、地域活力を向上させるためにも、道路アクセスの利便性や高速生、安全性などに配慮した道路整備を推進すべきである。 過疎地の診療所や産院等が閉鎖され、地域住民は、数時間かけて他市の病院へ通院している。また、休日や夜間の医療体制への不安は強く、どこに住んでいても、いつでも初期救急医療や高度救急医療を受診できる体制整備が必要であり、そのためにも、地域を結ぶ高速道路の早期整備を期待する。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○冬期間の除雪・防雪対策の強化・充実 雪国では、約半年が雪と共存する生活ですから、冬の暮らしの安全・安心に関する施策は地域の重要課題です。国道における「防雪柵」「雪崩予防柵」はもちろんですが、町道の管理では冬期間の除雪体制の整備として「矢羽根付ポール」や「スノーポール」の設置など、雪国ならではの整備が必要である。 また、冬期間の交通機能と安全確保のため、歩道の整備や除排雪体制、流雪溝の整備など、維持管理の強化が課題である。 ○安全な生活道路及び通学路の確保 本町を縦貫する国道5号は、小樽方面や函館方面への幹線道路であるとともに、商店街や通学路となっており住民の生活道路でもある。この区間では、高齢者や児童生徒などの事故が多発している状況である。本町のメインロードである国道5号を中心に、誰もが安心して快適に暮らせる活力ある町づくりを展開するためにも、歩道整備・バリアフリー化、安全・防災対策など、国道5号における仁木町市街地の改築は重要課題である。	雪国であるというハンディを感じることのない快適で良好な生活環境を整備することで、地域間格差のない誰でもどこでも安心して暮らせるまちづくりが実現できる。 道路の拡幅、歩道の設置、交通安全施設等の整備・充実を図ることで、交通事故等の防災・減災害効果が期待できる。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道仁木町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・計画的・効率的な維持管理や更新の推進	○道路管理の充実 本町を縦断する余市川には、8橋の長大橋が架かっていて、そのうち6橋が耐用年数にきており、今後維持管理に多大な費用を要することが予想される。橋以外の施設についても改修時期を迎えており、それら維持・補修にかかる補助制度がないのが実情。	道路橋をはじめとした道路施設の計画的な「予防保全」を推進するための補助制度が創設されることにより、防災・減災などの効果が期待できる。	